



INVESTOR RELATIONS デリカレポート

DELICA REPORT 23

第23期 中間事業報告書

2025年4月1日 - 2025年9月30日

 デリカフーズホールディングス株式会社
DELICA FOODS HOLDINGS CO., LTD.

東証スタンダード 証券コード 3392

DELICA FOODS HOLDINGS CO., LTD.

TOP MESSAGE

代表取締役社長 大崎 善保



収益改善の取り組みが奏功し、過去最高益を更新、大幅な黒字転換を実現

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。今回もこのようにご報告ができましたのは、ひとえに株主の皆様のご理解とご支援の賜物と重ねて御礼申し上げます。

当中間連結会計期間（2025年4月1日～2025年9月30日）におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善などにより、緩やかな回復傾向を続けました。一方で、景気の先行きは依然として不透明な状況です。当社グループの主要顧客である外食産業では、人流の回復やインバウンド消費の拡大で需要が増加しているものの、慢性的な人手不足や物流費・人件費の上昇、物価高による消費者の節約志向など、予断を許さない状況が続いています。

こうした中、当社は青果物加工流通分野において野菜の価値

を追求し、未来に向けた「持続可能な農業」と「食を通じた健康増進」を実現する付加価値創造企業として、数々の施策を重ねてまいりました。

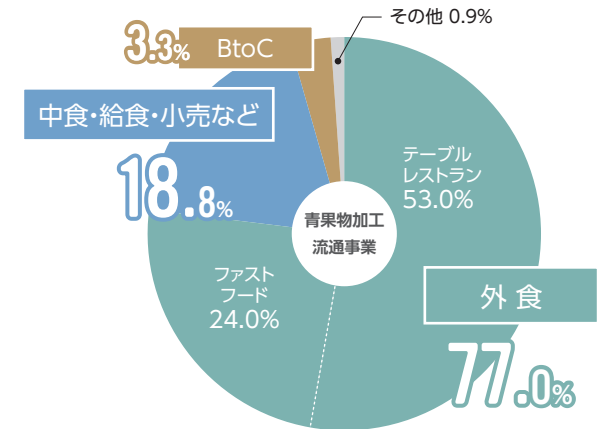
売上面では、外食産業における売上拡大基調と、省力化のニーズを捉え、着実に売上を伸ばしました。主業である青果物加工流通事業を担うデリカフーズ(株)では、取引先の裾野拡大を継続的に推進するとともに、新たなお客様のニーズにも積極的に対応しました。また、一般消費者向けミールキットを手掛ける楽彩(株)を中心としたBtoC事業の拡充や、物流子会社のエフエスロジスティックス(株)による新規開拓でグループ外売上の拡大に努めました。この結果、売上高は中間会計期間としては過去最高の30,810百万円となりました。

当中間連結会計期間

売上高	30,810百万円 (前年同期比9.8%増)
営業利益	1,228百万円
経常利益	1,258百万円
親会社株主に帰属する 中間純利益	842百万円

売上高は中間会計期間としては過去最高の30,810百万円を達成。本部集中仕入制度をはじめとする収益改善策の成果により、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する中間純利益のいずれも過去最高を更新しました。

業態別販売構成比



損益面では、野菜の価格が総じて落ち着く中、収益改善に向けた取り組みの成果が大きく表れました。今年度から開始した本部集中仕入制度が奏功し、調達コスト・在庫の厳格管理と廃棄ロスの削減が進みました。加えて、人員配置や物流の最適化といった現場オペレーションの効率化を図ったことや、物流子会社が収益性の高い新規取引先を開拓し、連結ベース利益を底上げしたことが貢献いたしました。以上の結果、当中間連結会計期間の営業利益は1,228百万円（前年同期は111百万円の営業損失）、経常利益は1,258百万円（前年同期は73百万円の経常損失）、親会社株主に帰属する中間純利益は842百万円（前年同期は66百万円の親会社株主に帰属する中間純損失）となり、いずれも過去最高益を更新し、大幅な黒字転換を達成いたしま

した。この力強い回復基調を確実なものとするため、昨年5月に発表した「第五次中期経営計画 keep on trying 2027」に基づき、既存事業の収益力強化と、成長分野への戦略的投資を加速させてまいります。特に、サプライチェーンのさらなる効率化、青果物の保存技術研究開発、新会社である農業法人デリカファーム(株)を含めた国産業務加工用野菜の生産と消費拡大に向けた施策、そして未来を担う人財への投資を重点的に実行し、持続的な企業価値の向上に努めてまいります。

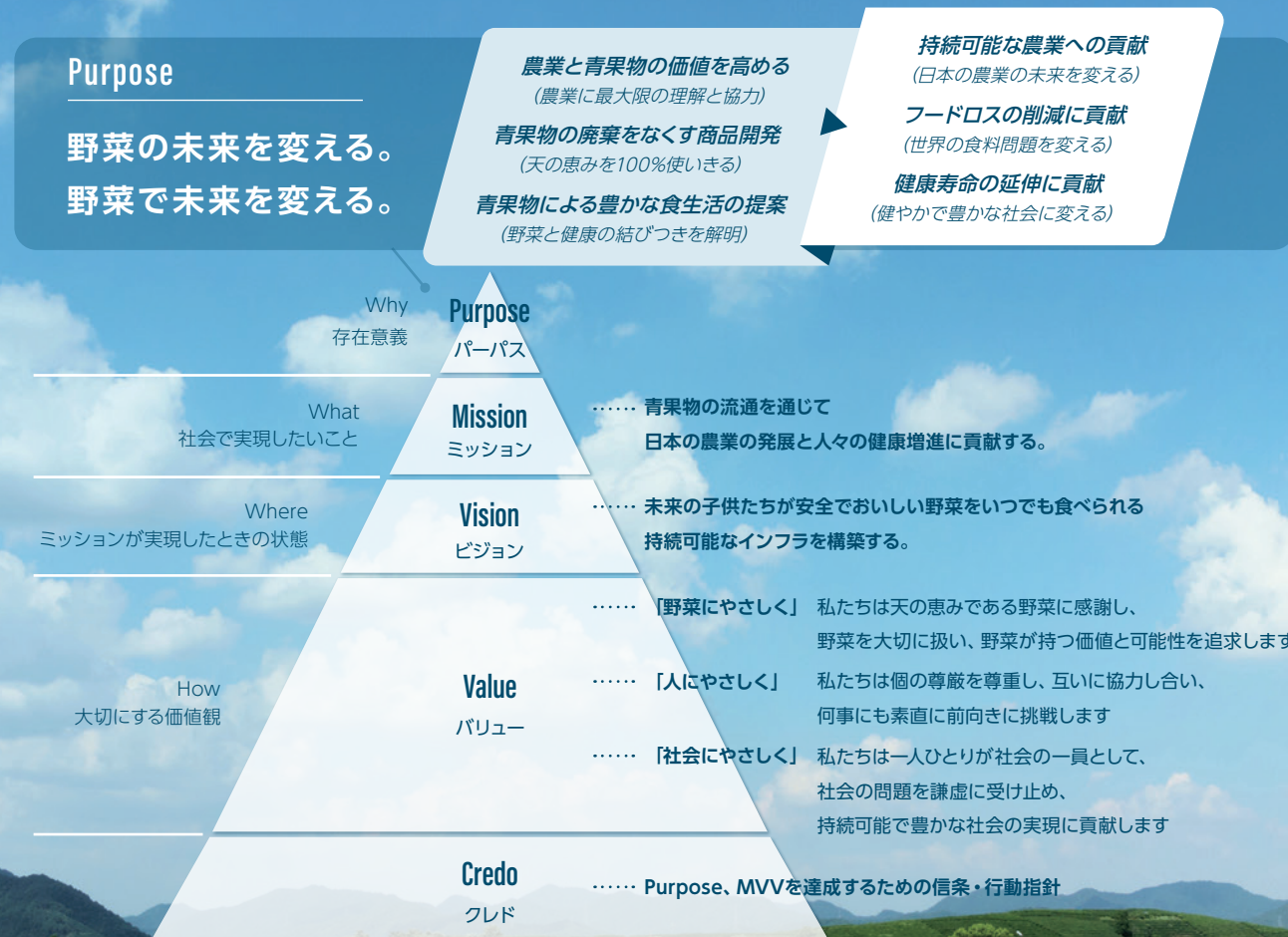
株主の皆様におかれましては、引き続きのご指導ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

野菜の未来を変えれば、 私たちの未来も変わる。

当社グループは、創業者の「野菜は私たちの食を豊かに、体を健康に導く天の恵みである」

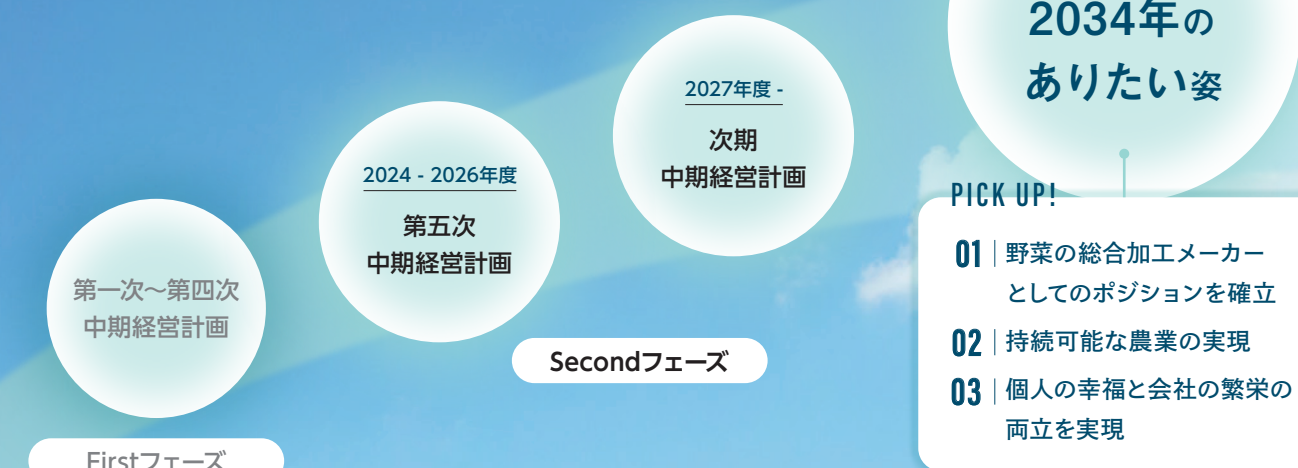
という教えのもと、青果物加工流通事業で成長を続けてきました。

この教えを礎に、2023年からは新たにパーパスを策定し、全社で理念経営を推進しています。



デリカフーズグループはSecondフェーズへ突入

時代の変化を見据え、第五次中期経営計画ではパーパスを起点とした長期ビジョンを策定しました。「野菜の総合加工メーカーとしてのポジションを確立」、「持続可能な農業の実現」、そして「個人の幸福と会社の繁栄の両立を実現」の3つを掲げています。



01 | 野菜の総合加工メーカーとしてのポジションを確立

全国から調達した野菜は、形や大きさが不揃いでも工場でもカットし無駄なく使用しています。さらに、加工度を高めた真空加熱や冷凍品の製造、青果物加工食品の商品開発を推進し、収益性や保存性を向上させながら、天の恵みである野菜を100%使いきる事業に取り組んでいます。今後は「野菜の総合加工メーカー」として、青果物の魅力を広く伝え、持続可能な青果物ビジネスを創造することを目指します。

さまざまな青果物加工商品を開発



加熱後、急速冷凍でおいしさを閉じ込めた冷凍国産プロッコリー



野菜端材からつくられるベジブロード入り野菜ポタージュ

02 | 持続可能な農業の実現

近年、異常気象や天候不順による青果物の不作から野菜の価格が高騰しています。このような調達リスクが常態化しつつある中、継続的な安定供給を図るための各種施策に取り組みます。

NEWS 01

デリカファーム設立

未来の子供たちに安全でおいしい野菜を残していくため、2025年7月に新会社を設立しました。

Q. 農業に取り組む意義とは？

A. 当社自らが農業に取り組むことで、農業の実態や経営状況を深く学び、長期的な事業推進力を養います。これにより、安定した調達基盤の構築や輸入野菜の国産化、そして持続可能な農業の実現を目指します。

Q. 具体的には何を行うのですか？

A. 見た目よりおいしさや栄養価を重視する「業務加工用野菜」を生産し、栽培から選果・梱包・出荷までの作業の合理化を図ります。2025年9月には、熊本農場として熊本県玉名市にビニールハウス施設を取得しました。

Q. どんなものを生産するのでしょうか？

A. 加熱や加工に適した「赤系トマト」と、加工作業の負担を軽減できる「種なしピーマン」の2品目から生産を開始しています。9月中旬に苗を植える作業が完了し、11月には初の自社農作物を収穫する予定です。



熊本農場（熊本県 玉名市）

名称	農業法人 デリカファーム株式会社
施設概要	ビニールハウス2棟 9,916 m ²
資本金	80百万円
設立年月日	2025年7月9日
事業開始	2025年9月

TOP MESSAGE 農業法人 デリカファーム株式会社 代表取締役 三好 正浩

気候変動や人材不足など、農業はこれまでの経験則だけでは対応しきれない課題が山積し、産地の皆様も大きな不安を抱えています。新会社が目指すのは「持続可能な農業の実現」です。私たちが一から農業に携わるのは初めての経験ですが、協力会社の方々や地域の皆様のご理解とご協力を得ながら、従業員一丸で、この新たな挑戦を確かな軌道に乗せていきます。そして、未来の食と農のあり方を考え、地域とともに歩む農業の新しい形を創造してまいります。

NEWS 02

東海マザーセンターの建設が進行中

調達に関する物流費の削減や貯蔵機能の強化を図るため、2026年春に集出荷貯蔵に特化した「東海マザーセンター」を東西の中間に位置する中京エリア（愛知県）に開設します。グループの幹線便網を利用することで産地からの集荷と消費地への配送効率を高めます。また、多方面の積み替え・混載を可能とすることで車両回転率の改善を図ります。

デザイナーフーズが開発した保存技術を導入

当センターでは、デザイナーフーズによる「長期保存技術」の研究成果を実装する予定です。旬の野菜を余すところなくお届けするため、温度や湿度を最適に管理し、鮮度劣化を防ぎながら保存期間の延長を実現させます。



エフエスロジスティックスの物流倉庫として活用

エフエスロジスティックスでは、当センターをTC（通過型物流センター）として活用することにより、新規の外販拡大を目指します。また、オペレーションの効率化を意識し、倉庫管理システムなども導入する予定です。



03 | 個人の幸福と会社の繁栄の両立を実現

主要数値目標（非財務）	2025年3月期実績	2027年3月期目標
従業員エンゲージメントスコア (物流部門除く/100pt. 満点)	69pt.	80pt.
女性管理職比率 (物流部門を除く)	22%	23%
CO ₂ 排出量削減率 (物流部門・売上高当たり原単位)	2024/3期比 △7%	2024/3期比 △10%

経営理念の実現に向けて事業を推進するには、人財の育成と組織力の向上が生命線になると考えます。第五次中期経営計画では、基本的な財務面の数値目標に加え、サステナビリティやダイバーシティ&インクルージョンにつながる新たなテーマと非財務面の数値目標を設定しています。バランスよく双方に取り組むことで、総合的な企業価値の向上を実現し、ステークホルダーの信頼に応えていきます。

TOPICS

デリカフーズで本部集中仕入の始動

調達コストの上昇や在庫管理による需給バランス調整など、青果物加工流通事業を継続する上で課題は多くあります。デリカフーズ商品統括本部では、商品供給体制強化の観点から、今まで事業所単位で対応していた主要品目の契約・発注業務を一括で担うことにより全体最適を図っています。





新任取締役のご紹介 本年6月の定時株主総会にて役員に就任いたしました。

高力 美由紀 MIYUKI KOHRIKI

当社は、経営基盤の強化とコーポレート・ガバナンスの拡充などを目的として、本年6月の定時株主総会にて新たに社外取締役1名を選任しました。新任取締役から皆様へのご挨拶をご紹介します。

ご挨拶

私は現在、大学教員として教育や研究、地域・社会への貢献に携わっています。一方で民間研究所の研究員や外食企業での実務経験もあり、常に「理論と実践をどう結び付けるか」を模索してきました。このたびデリカフーズホールディングスの社外取締役の任をいただき、改めて「実務」の世界で理論と実践の融合を実現させていきたいと考えています。また、デリカフーズグループでは未利用食材の活用や生産者とのネットワーク強化に日々取り組んでおり、これらは私の研究テーマとも密接に関わっています。これまで培った私自身の経験や知見、ネットワークを活かし、新たな研究成果や情報を提供することで、当社が「食」の力強い「プラットフォーム」として持続的に機能していけるよう、尽力してまいりたいと思います。

略歴

1998年5月	セゾン総合研究所 主任研究員
2002年4月	(株)西洋フードシステムズ コーポレート室 HR開発担当
2003年10月	(株)西洋フードシステムズ コーポレート室 広報担当部長
2007年4月	西洋フード・コンパスグループ(株) 人材開発部門C&Cリサーチ部長
2009年4月	宮城大学 事業構想学部 准教授
2016年4月	宮城大学 事業構想学部 教授
2018年4月	新潟食料農業大学 食料産業学部 教授(現任)

[デリカフーズグループ会社紹介]

DELICA FOODS HOLDINGS

デリカフーズグループは野菜の価値を追求し、
未来に向けた「持続可能な農業」と「食を通じた健康増進」を実現する企業です。



デリカフーズ

外食・中食産業向けを中心にホール野菜およびカット野菜などを製造、販売しています。独自の青果物加工流通インフラを構築し、全国の産地から調達した新鮮な青果物を国内約30,000店舗へお届けしています。



デザイナーフーズ

「選食力」＝「栄養力」＝「健康力」と位置づけ、食についてのコンサルティングや「野菜を中身で評価する」という考えにもとづいた野菜の機能性研究、鮮度保持技術開発を行っています。



エフエス ロジスティックス

トラック140台以上とドライバー200名体制でグループの物流機能を担います。拠点間の幹線便や共同配送のほか、365日対応のチルド配送網を活かしてグループ外の顧客からの外販事業も拡大しています。



楽彩

「楽しく、楽しく、食卓を彩る。」をコンセプトに、消費者向け自社ECサイトの運営やミールキットの開発・販売を行っています。他企業のニーズに合わせたOEM商品の提案・販売なども展開。



デリカファーム

グループ初の農業法人として2025年7月に設立されました。熊本農場で業務用野菜の生産を開始し、持続可能な農業の実現に向けて、新たな一歩を踏み出しています。詳しくは本報告書5ページをご覧ください。



統合報告書について

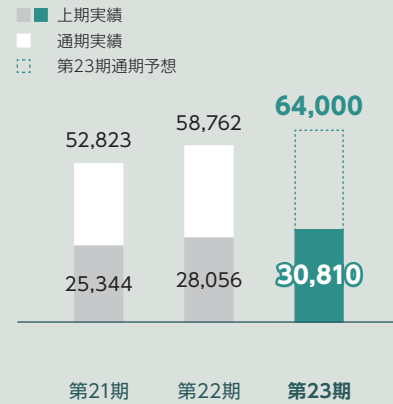
すべてのステークホルダーの皆様にご事業内容と経営戦略をより深くご理解いただくため、財務・非財務情報を掲載した統合報告書を発行しています。

最新の統合報告書は
当社コーポレートサイト内
「IR資料室」にてご覧いただけます！
<https://www.delica.co.jp/ir/>

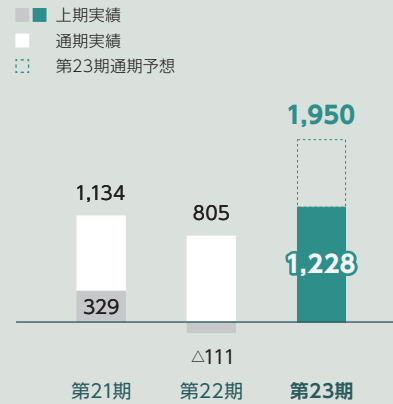


連結財務ハイライト [2025.4.1 - 2025.9.30]

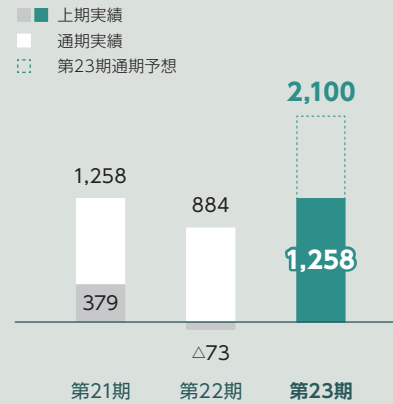
売上高 (単位:百万円)



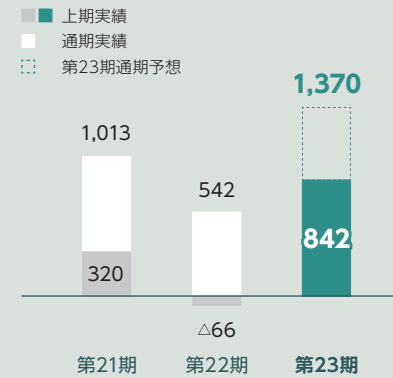
営業利益 (単位:百万円)



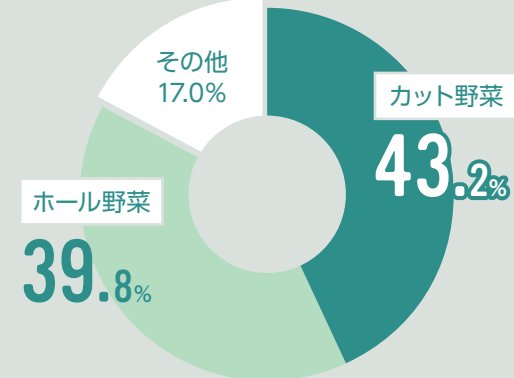
経常利益 (単位:百万円)



親会社株主に帰属する当期純利益 (単位:百万円)



部門別 販売構成比



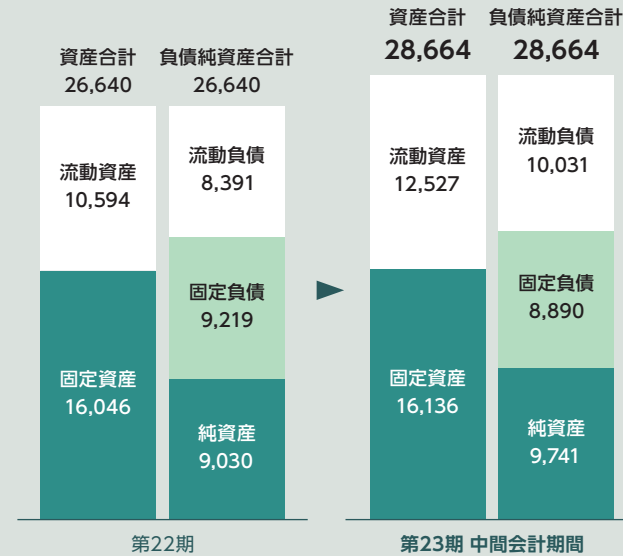
IRサイトのご案内

その他の財務関連データにつきましては当社ホームページ「IR情報」をご覧ください。

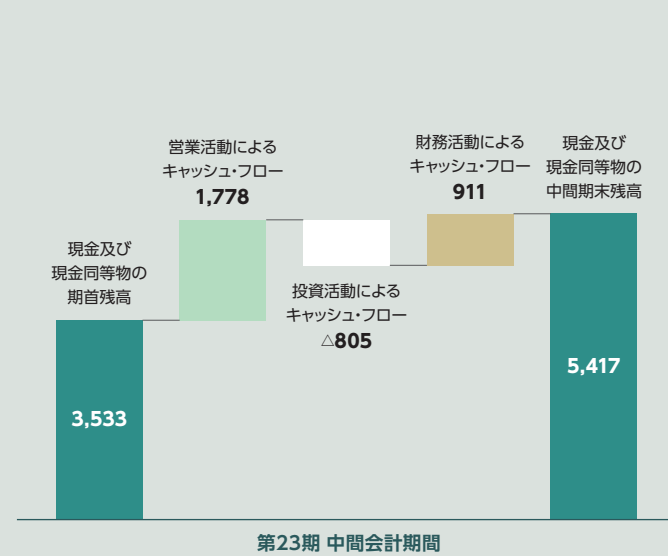


デリカフーズ IR <https://www.delica.co.jp/ir/>

要約連結貸借対照表 (単位:百万円)



要約連結キャッシュ・フロー計算書 (単位:百万円)

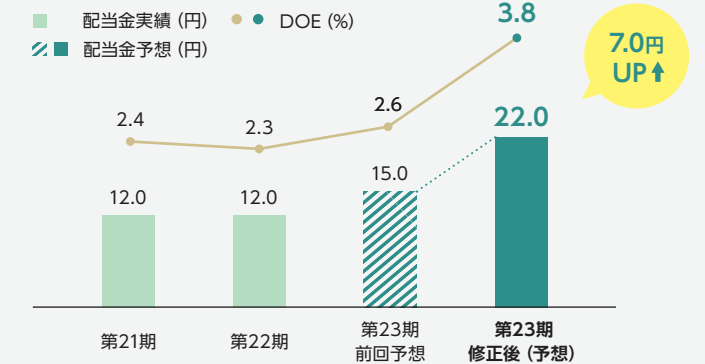


株主還元・配当について

当社は、企業としての成長に応じた安定的・継続的な株主還元を実施し、配当性向30%程度に累進的配当を堅持することを基本方針としております。2026年3月期の年間配当予想は、本年10月に発表した通期業績予想の上方修正を踏まえ、前回発表予想より7円増配の1株当たり22.0円とし、DOEも3.8%に上昇する見込みでございます。

※DOE (株主資本配当率) = 配当額 / 株主資本

1株当たりの年間配当金とDOE



7.0円 UP↑

会社概要

2025年9月30日現在

商号	デリカフーズホールディングス株式会社		
英文社名	DELICA FOODS HOLDINGS CO., LTD.		
設立	平成 15 年 4 月 1 日		
創業	昭和 54 年 10 月 6 日		
所在地	〒121-0073 東京都足立区六町四丁目 12 番 12 号		
資本金	1,772,363 千円		
従業員数 (連結)	816 名 (他、平均臨時雇用者数 2,286 名)		

役員

代表取締役社長	大崎 善保	社外取締役	尾崎 弘之
取締役会長	館本 勲武	社外取締役	柴田 美鈴
取締役	小林 憲司	社外取締役	高力 美由紀
取締役	仲山 紺之	常勤監査役	田井中 俊行
取締役	市野 真理子	社外監査役	森田 雅也
		社外監査役	三島 宏太

会計監査人 南青山監査法人

株式状況

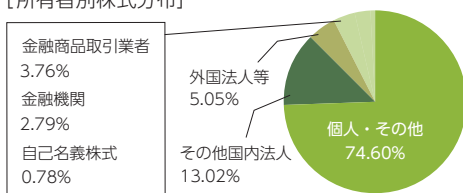
2025年9月30日現在

発行済株式総数 [所有者別株式分布]

16,372,000 株

株主総数

12,212 名



大株主 ※持株比率は、自己株式を控除して計算しております。

株主名	持株数 (株)	持株比率 (%)
館本 篤志	2,038,900	12.55
エア・ウォーター株式会社	1,719,400	10.59
館本 勲武	967,100	5.95
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	400,000	2.46
大崎 善保	370,948	2.28
株式会社SBI証券	227,507	1.40
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC)	215,818	1.33
株式会社オリエンタル	200,000	1.23
デリカフーズグループ従業員持株会	199,900	1.23
野村 五郎	189,800	1.17

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 TEL.0120-232-711 (通話料無料) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
上場証券取引所	株式会社東京証券取引所 (証券コード 3392)
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載 URL https://www.delica.co.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

【ご注意】

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機構 (証券会社等) で承ることになっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人 (三菱UFJ信託銀行) ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

 **デリカフーズホールディングス株式会社**
DELICA FOODS HOLDINGS CO., LTD.
〒121-0073 東京都足立区六町四丁目12番12号



IR最新情報は
ホームページを
ご覧ください。

デリカフーズ  <https://www.delica.co.jp/>

【お問い合わせ】 TEL 03(3858)1037 FAX 03(5851)1056



本事業報告書は、地球環境への負担を低減させるために、FSC®認証紙と、UVエコインキを使用しています。

UD FONT

見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。